

2013年3月期 決算説明会

第4次中期経営計画最終年を迎え
好調な自動車産業を軸に
利益率の高い海外で収益拡大を加速



2013年3月期決算説明会のアウトライン(目次)

自動車産業を軸に海外で収益拡大

会社概要

日新について

P.4

決算概要

2013年3月期実績

P.7

2014年3月期計画

P.17

代表取締役社長
筒井 雅洋

中期経営計画

進捗状況

P.25

自動車物流

グローバル調達への対応

P.33

常務取締役
櫻井 秀人

決算ハイライト ～ 海外は順調も、国内が低調推移 ～

自動車関連は好調も電機・電子関連と日中貿易の落ち込み響く

2013年3月期: 計画

- 売上高: 179,800百万円
- 営業利益: 4,200百万円

2013年3月期: 実績

- 売上高: 175,230百万円
(計画比2.5%減、前年比2.1%減)
- 営業利益: 3,422百万円
(計画比18.5%減、前年比9.7%減)

プラス要因

- ▲ 完成車、CKD、自動車関連部品が想定以上の取扱いで収益に寄与
- ▲ 北米、欧州が大幅回復したほか、アジア、中国も順調に推移
- ▲ 旅行業が業務渡航を中心に伸長

マイナス要因

- ▼ 中小型液晶、ソーラー、液晶TV部材の取扱いが低迷
- ▼ 日中貿易鈍化による日本でのターミナル事業が低調

自動車産業を軸に増収増益を目指す

2014年3月期: 計画

- 売上高: 194,000百万円
(前年比10.7%増)
- 営業利益: 4,500百万円
(前年比31.5%増)

プラス要因

- ▲ 自動車の現地生産拡大への対応ー生産部品輸送、設備移転の取り込み
- ▲ 円高是正による輸出の回復
- ▲ 連結対象拡大(上海高信:持分連結→FULL連結、中外運日新:対象外→持分連結)

マイナス要因

- ▼ 電機・電子業界の低調
- ▼ 中国経済の減速懸念

日新について

～「日々新たに」の“日新スピリット”で新商品・サービスを開拓～

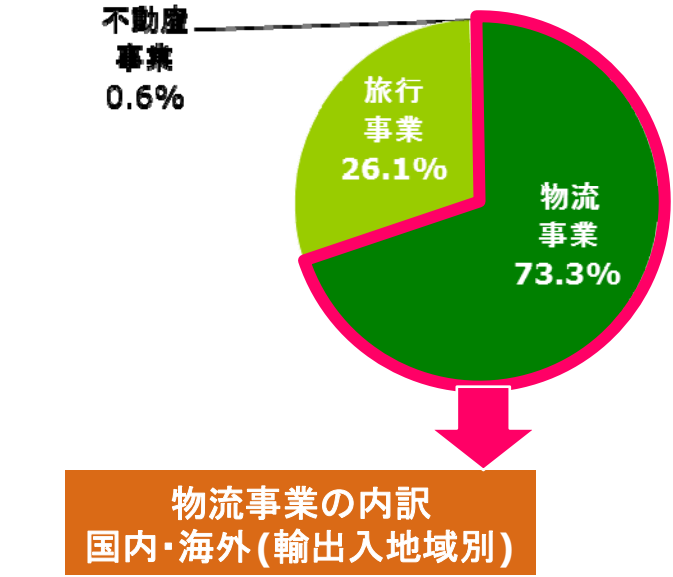
日新のビジネス ～ 物流事業を柱に3事業を展開 ～

		売上高 構成比(%)	事業内容
物流事業	航空貨物	73.3%	■ 海外23カ国におよぶグローバルネットワークで、高品質・安心のサービスを提供
	海上貨物		■ 国際複合一貫輸送のパイオニア 海上・航空・鉄道を自在に組み合わせ、 ドア・ドアサービスを提供
	港湾・倉庫		■ 東京、横浜、神戸、大阪で大手船社指定の CFS(17,400㎡) / CY(842,900㎡)を運営 ■ 横浜・大阪の港頭地区を中心に30数力所の倉庫
	国内		■ 共同配送、危険品輸送、鉄道輸送 ■ 構内作業
旅行事業		26.1%	■ 企業・団体の業務出張をトータルに サポート(業務出張は業界2位の実績)
不動産事業		0.6%	■ 商業ビル、商業用地の不動産賃貸事業

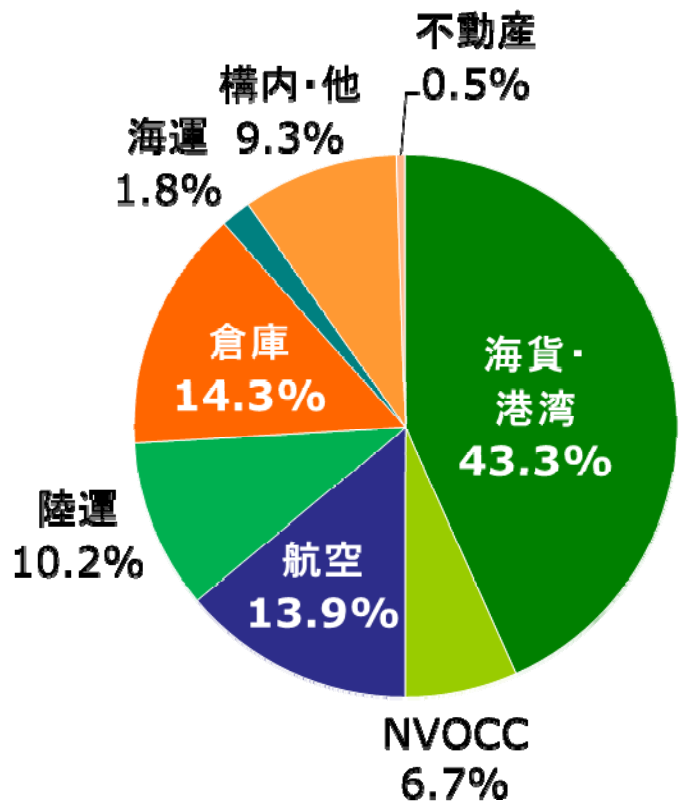
※売上高構成比は、2013年3月期決算数値

日新の事業構成 ～ 物流の約7割は国際物流 ～

連結売上高(2013年3月期)



単体売上高(2013年3月期)



中国	電機、アパレル
アジア	自動車、電機
北米	自動車、電機、生鮮
欧州	電機、自動車

出典: 社内データより

2013年3月期決算実績

～ 自動車関連は順調も、日本での電機・電子、
中国関連の落ち込みが響き、減収減益 ～

2013年3月期 前提条件

項目	想定(2012年9月)	結果
自動車関連	▲ 米国での自動車販売好調 ▲ 海外移転設備増加 — メキシコ ▼ 完成車輸出の減少	● 米自動車販売好調 ● アジア、北米で自動車増産 ● 完成車輸出維持
電機・電子関連	▲ スマートフォン関連部材回復 ▼ 電機・電子業界低迷	● 荷動き低調 ● 電機・電子業界の低迷継続
中国市場関連	▼ 日中貿易の落ち込み ▼ 中国経済の減速懸念	● 日中貿易低迷 ● 中国経済の減速懸念継続
その他・一般	▼ 円の高止まり — 輸出減少、輸入堅調	● 円高是正 — 輸出底入れ
為替相場	2013年3月期 予算策定レート 1US\$ = ¥78	1US\$ = ¥94 (海外実績換算は1US\$ = ¥86)

2013年3月期実績

- 自動車関連と海外、旅行業が牽引したものの、日本での電機・電子、中国関連の落ち込みが響き、減収減益
- 当期利益は環境対策、株式減損で特別損失が発生

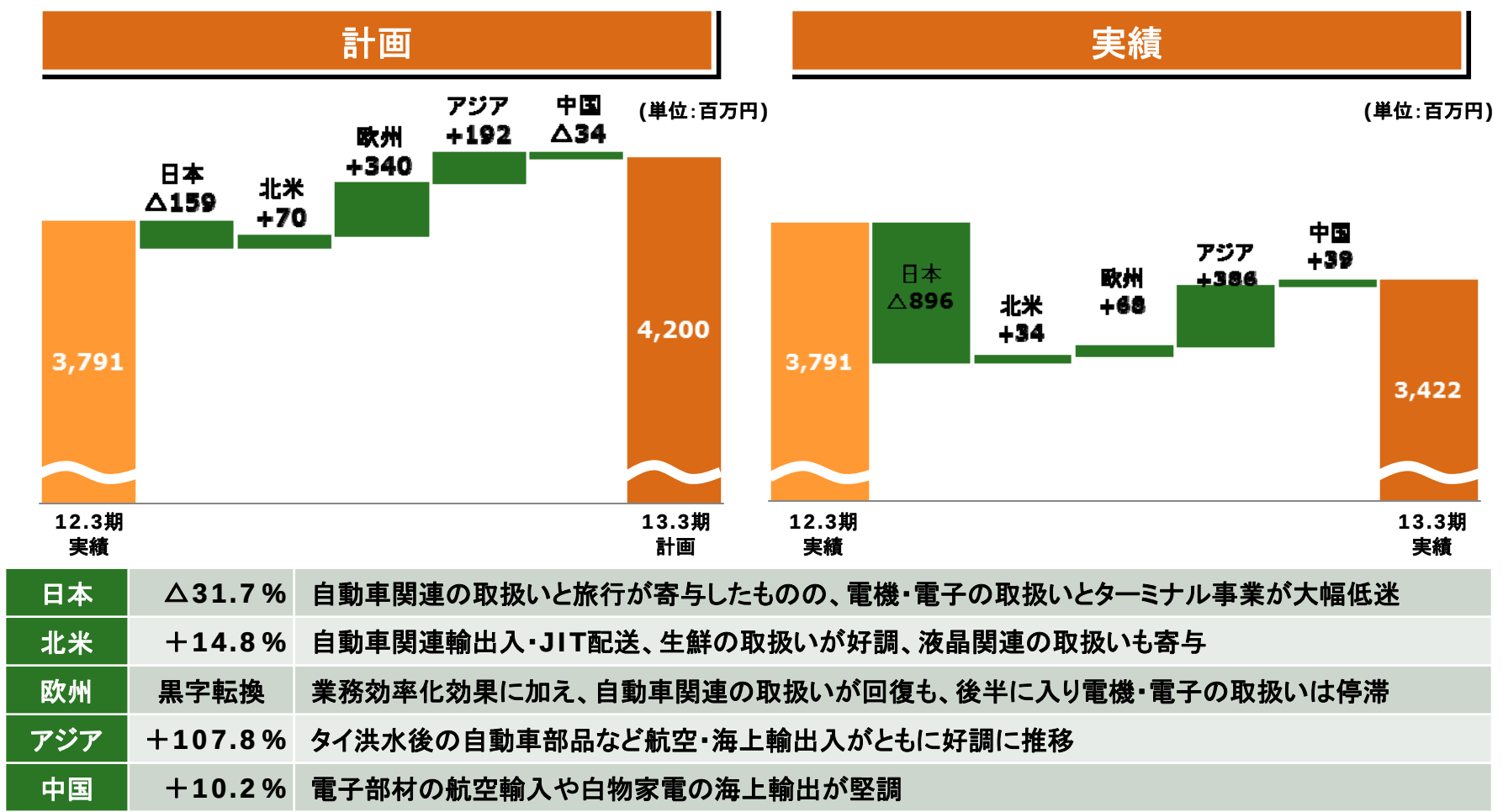
(単位:百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期			
		計画	実績	計画比	前期比
売上高	179,059	179,800	175,230	△2.5%	△2.1%
営業利益	3,791	4,200	3,422	△18.5%	△9.7%
経常利益	4,119	4,300	3,558	△17.3%	△13.6%
当期利益	1,951	2,300	1,836	△20.2%	△5.9%

※ 計画値は2012年10月31日発表の数値

2013年3月期地域別実績(営業利益)

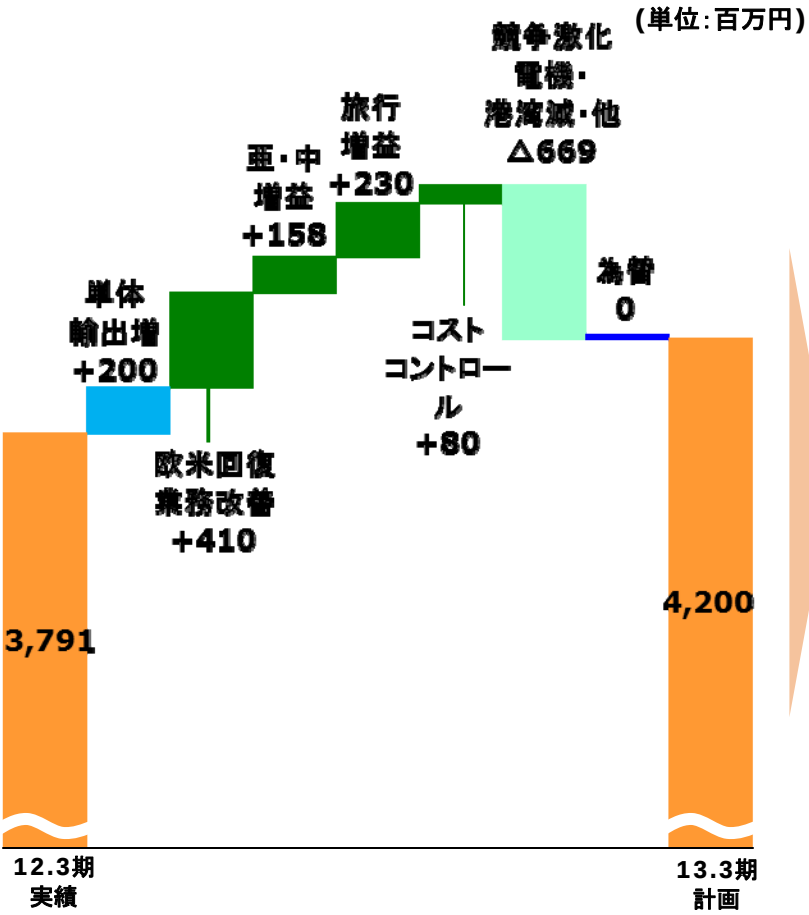
- 海外は順調。日本は自動車関連が好調も、電機・電子、ターミナル事業が落ち込む



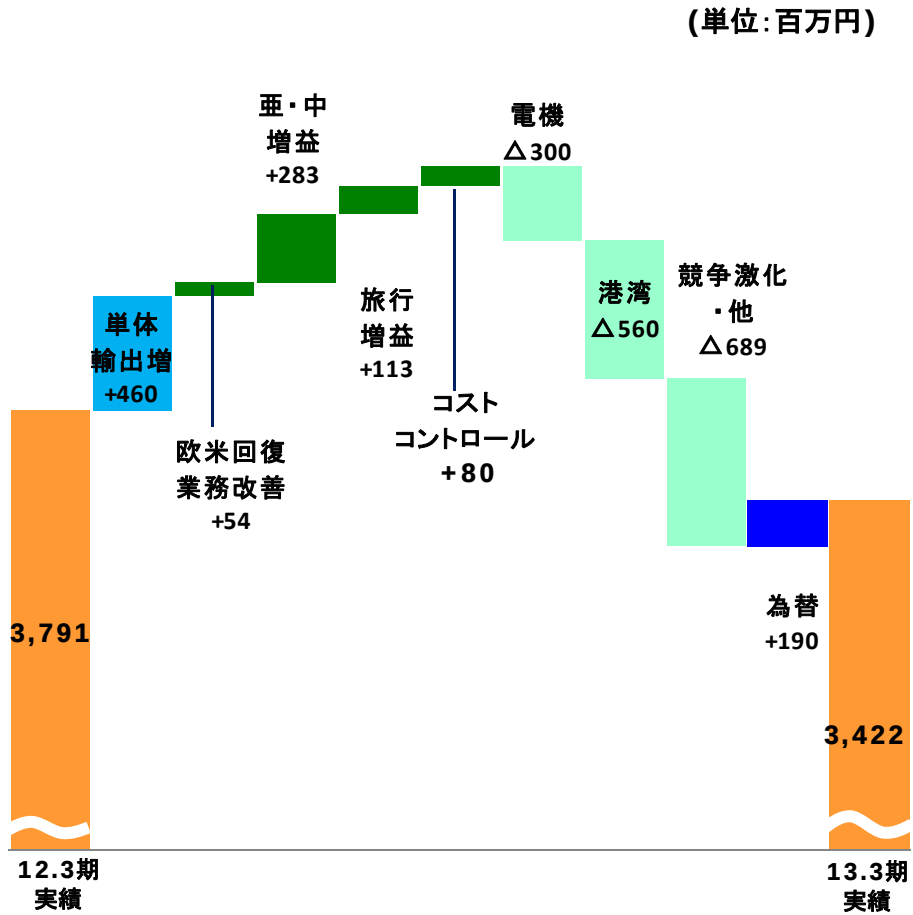
※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値
※ 計画値は2012年10月31日発表の数値

2013年3月期 実績 営業利益増減要因

計画



実績



※ 計画値は2012年10月31日発表の数値

2013年3月期実績 (単体)営業利益増減要因

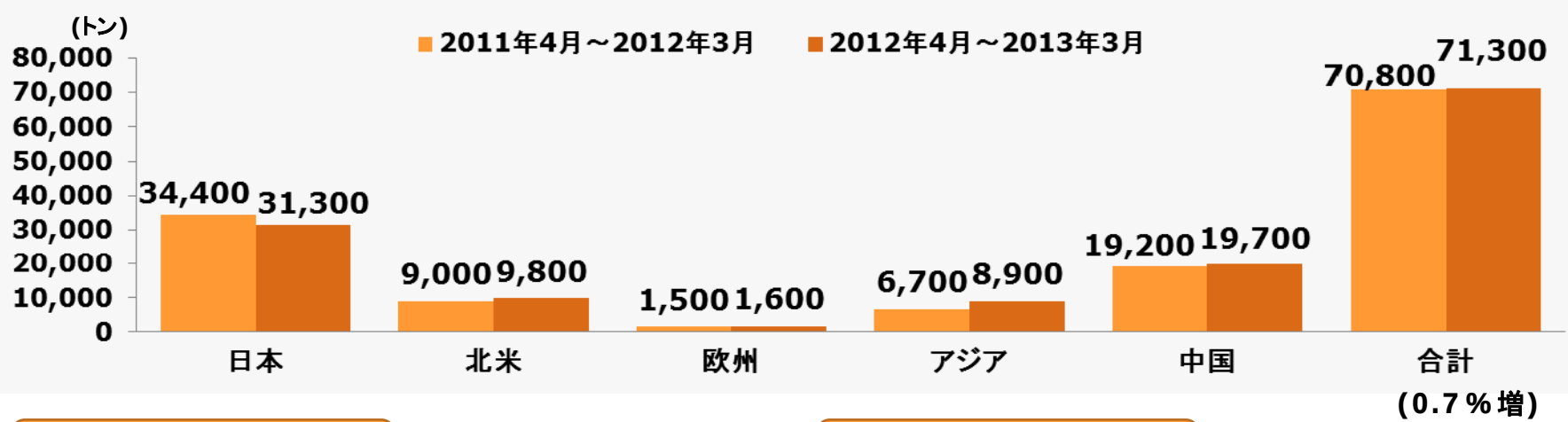
取り組み施策	想定増減	結果	
● 自動車関連貨物の輸出入取り込み			
CKD、ベンダー部品、設備機器 (海外移転)	+200百万円	日本発完成車輸出維持 日本発中国向けCKDは減少 北米、アジア向けは好調続く メキシコ向け設備移転寄与	+300百万円
● その他			
食品、日用品輸入の取扱い増加 復興需要の本格化 - 住宅設備、建材等の輸入増 航空輸送の拡大(中小型液晶) 堺LCなど大型物流センターの 収益性向上	±0	年末、新入学の繁忙期順調 堅調 荷動き低調 満床続く	+150百万円

期初想定外の減益要因

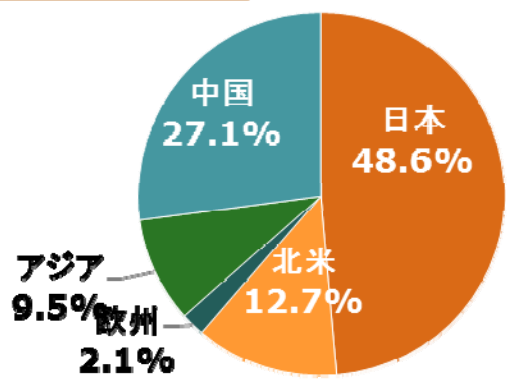
電機・電子の取扱低調(ソーラー、液晶TV)	△450百万円	日本発は低迷続く	△300百万円
ターミナル事業の落ち込み(中国船など)		大幅な落ち込み	△560百万円
競争激化・他	△219百万円	収受料金低下、円高での輸出減	△689百万円

航空貨物 2013年3月期 輸出取扱物量

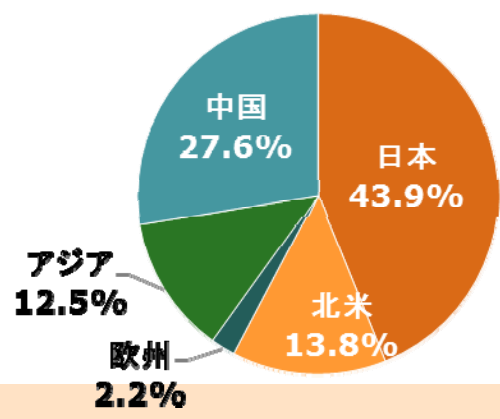
- 日本発は自動車関連が大幅増も電子部材が低迷、北米発は自動車関連・生鮮好調、アジアも自動車関連が順調に推移、中国発は電子部材が伸び悩み



2011年4月～2012年3月
構成比

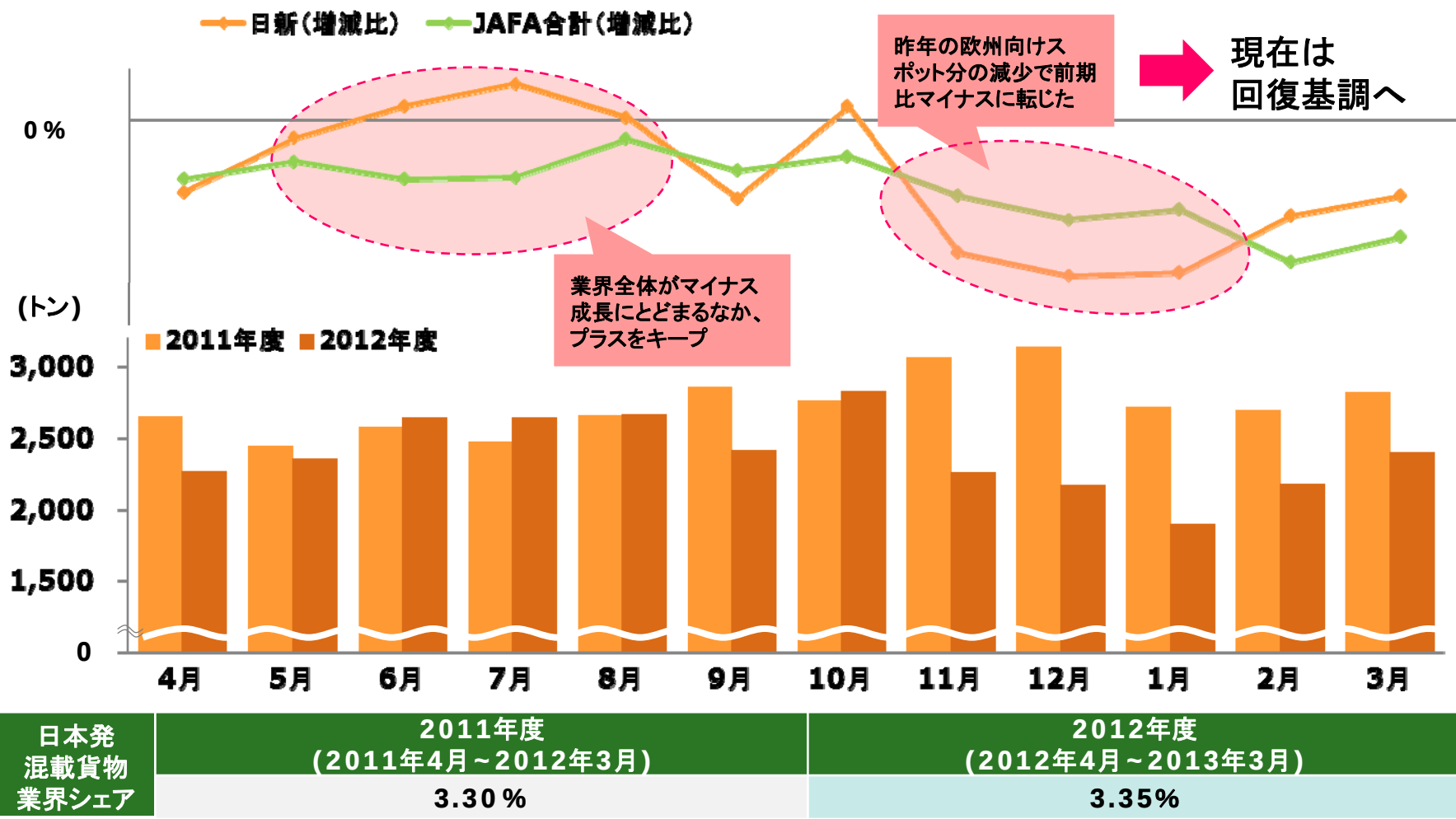


2012年4月～2013年3月
構成比



航空貨物 日本発輸出混載取扱物量 月別推移

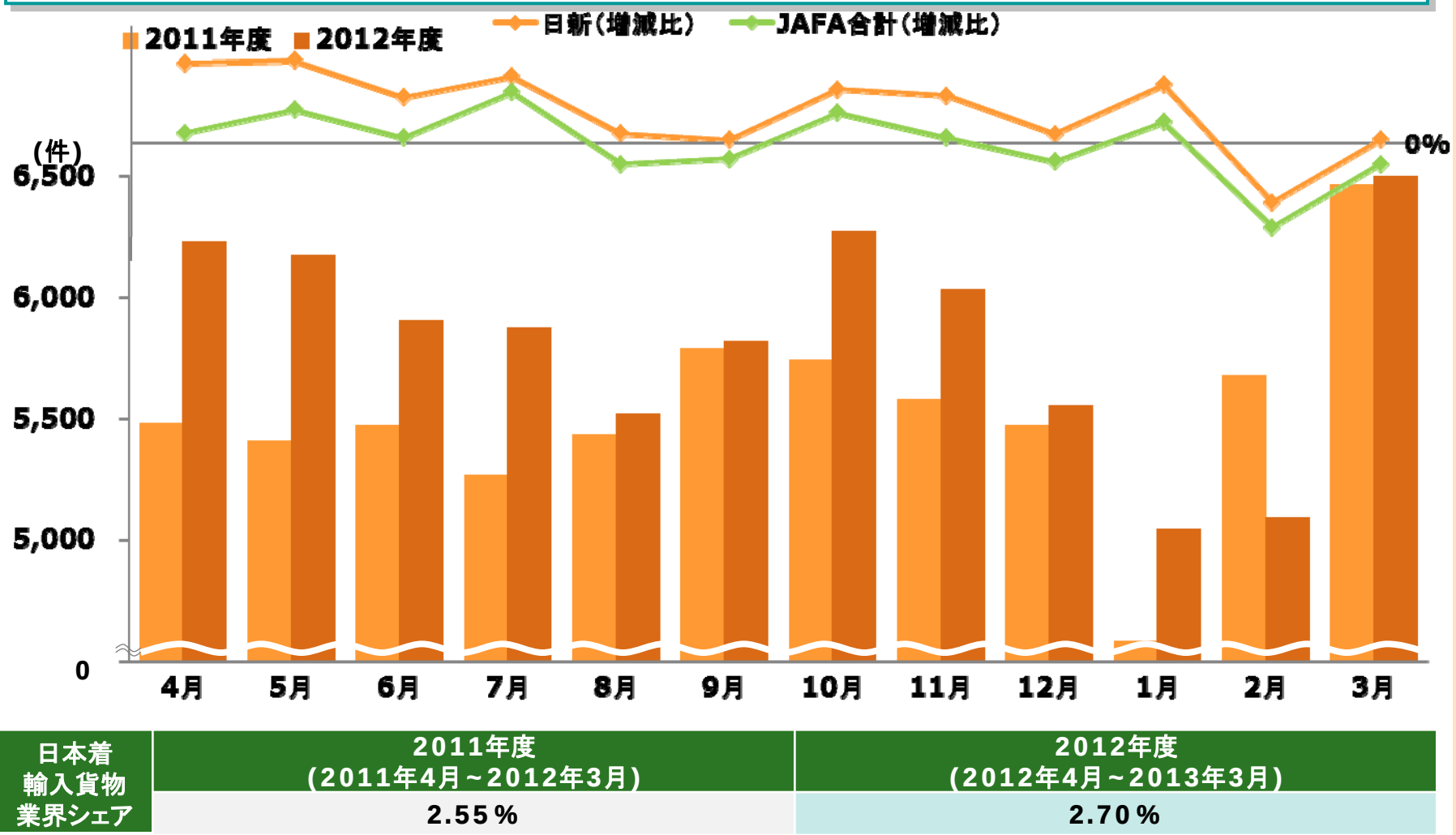
● 上期は堅調も下期は全体的に荷動き低調、2～3月は自動車部品が寄与



※ 業界シェアは当社推

航空貨物 日本着輸入取扱件数 月別推移

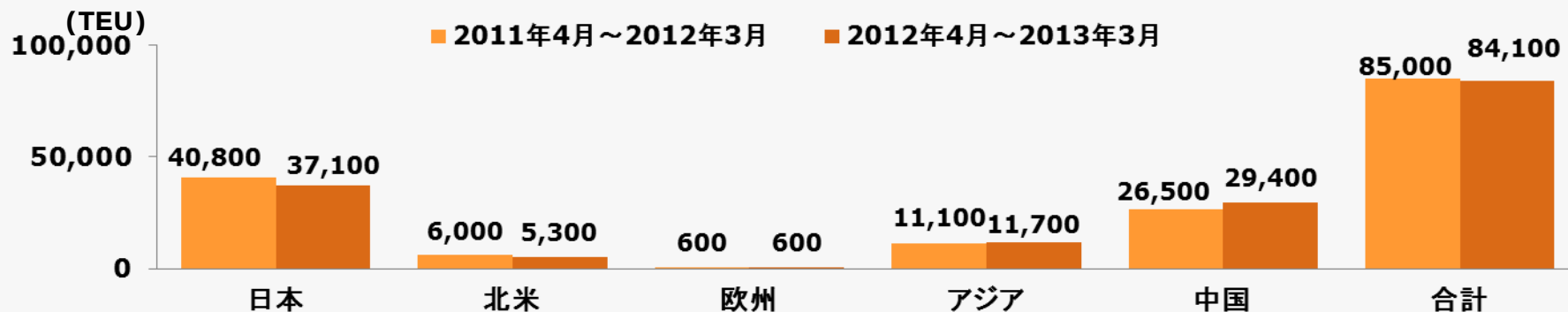
● 上期、下期とも前期比プラスで推移生鮮、アパレル、自動車関連が堅調



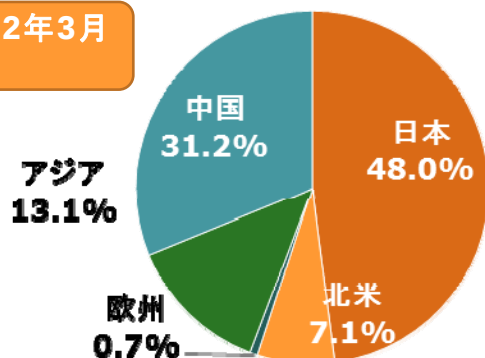
※ 業界シェアは当社推計

NVOCC(FCL) 2013年3月期輸出取扱物量

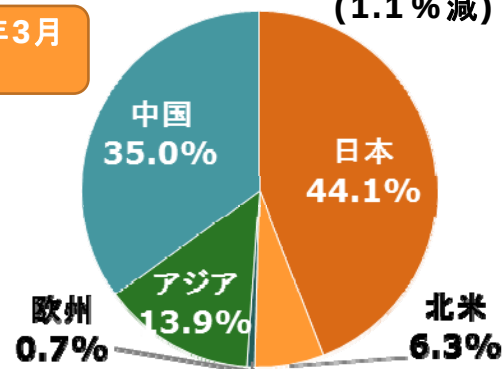
- NVOCC(FCL)は、中国発自動車部品、家電が増加、日本発は北米向け自動車関連堅調



2011年4月～2012年3月
構成比



2012年4月～2013年3月
構成比



※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

日本発 米国向け 業界シェア	2011年度(2011年4月～2012年3月)	2012年度(2012年4月～2013年3月)
	4.93 %	5.18 %

※ 業界シェアは当社推計

2014年3月期決算計画

～ 先行不透明ながら、自動車関連貨物を軸に増収増益 ～

2014年3月期 通期計画の前提条件

項目	想定
自動車関連	▲ アジア、北米での増産継続 ▲ 海外移転設備増加 – メキシコ ▼ 完成車輸出の減少
電機・電子関連	▼ 電機・電子業界の先行き不透明
中国市場関連	▲ 日中貿易の回復 ▼ 中国経済の減速懸念
その他・一般	▲ 製材・合板輸入の堅調 ▲ 円高是正 – 輸出増加 ▼ 航空貨物マーケットの低迷
為替相場	2014年3月期 予算策定レート 1\$ = ¥94

足元(4～5月)の状況
● アジア、北米増産継続 ● メキシコ向け設備輸送堅調 ● 完成車輸出維持
● 電機・電子業界の先行き不透明継続
● 日中貿易改善の兆し ● 中国経済の減速懸念拡大
● 製材・合板輸入の堅調継続 ● 円安効果はまだ現れず ● 航空貨物マーケット回復遅れ
● 1\$ = ¥102 【為替換算差(営業利益段階)】 米ドル、ユーロは1円の円安で、 17百万円増要因

2014年3月期 通期計画

- 自動車産業を軸に海外で収益を拡大
- 国内ではターミナル事業の回復を見込むとともに、事業の再構築により収益増加をはかる

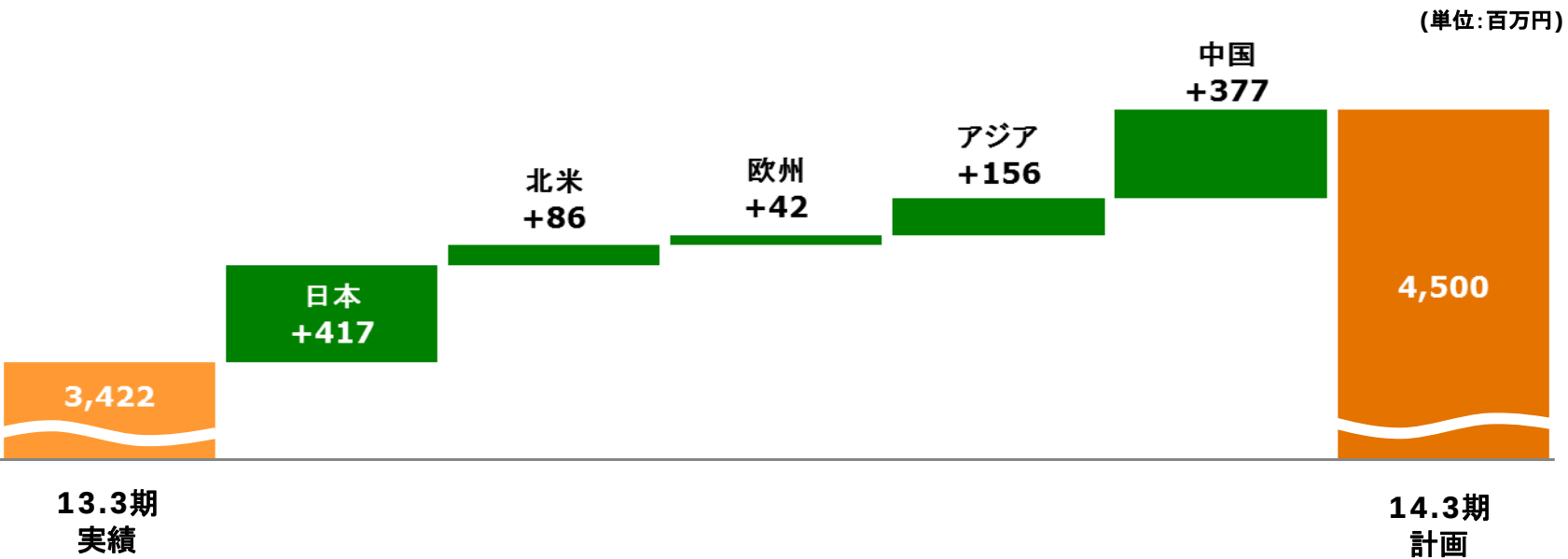
(単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期		
	実績	計画	増減額	前期比 (%)
売上高	175,230	194,000	18,770	10.7%
営業利益	3,422	4,500	1,078	31.5%
経常利益	3,558	4,600	1,042	29.3%
当期利益	1,836	2,800	964	52.5%

前期比増収増益

2014年3月期 地域別通期計画(営業利益)

- 日本回復、北米、アジアは順調な推移、中国は連結対象拡大

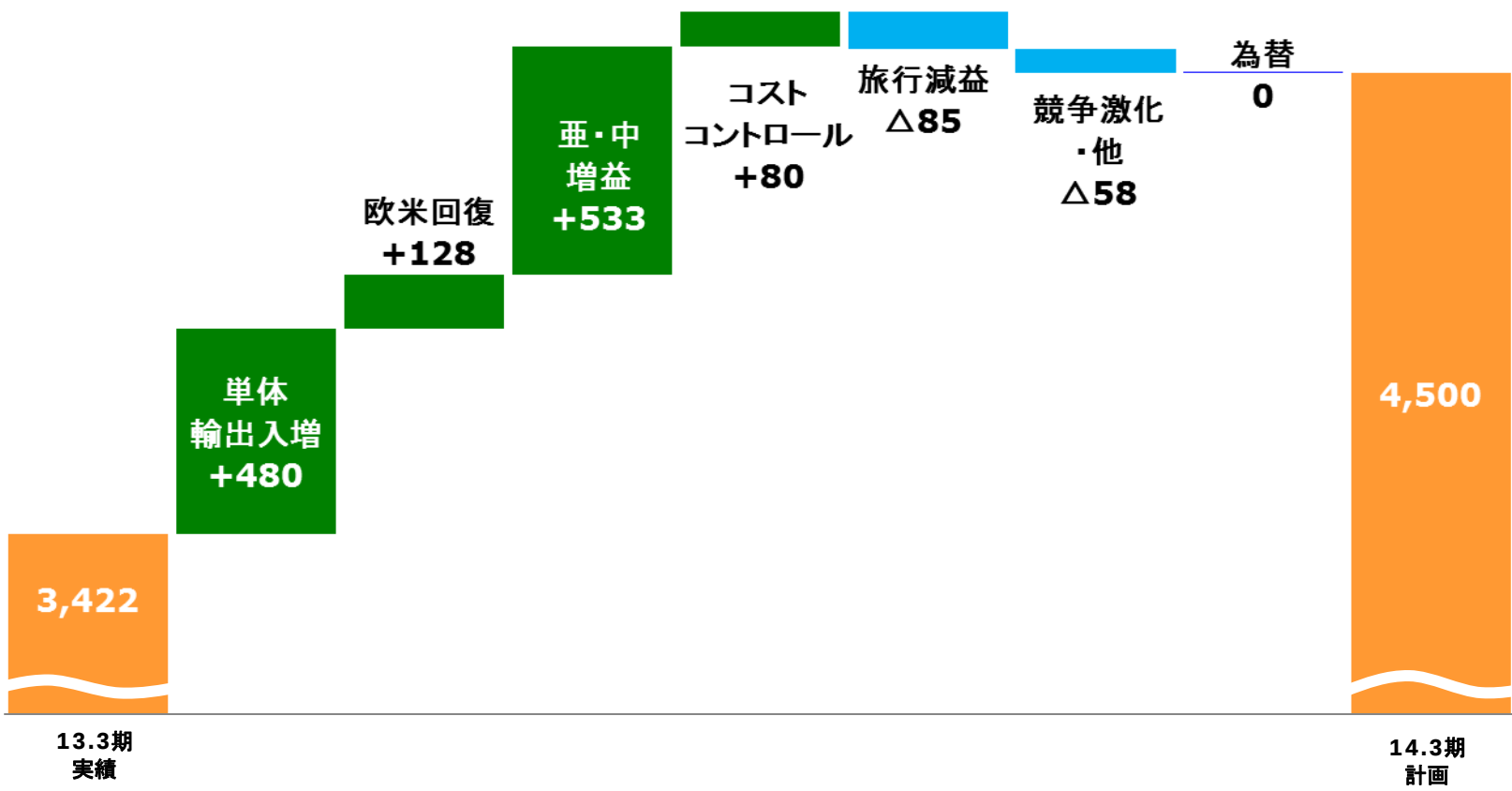


日本	+21.6%	自動車関連の取扱拡大、ターミナル事業の取扱増加に加え、事業再構築効果
北米	+32.6%	メキシコを含めた自動車関連の拡大、業務効率化効果
欧州	+72.4%	電機・電子の取扱いは厳しいが、事業再構築、業務効率化効果
アジア	+21.0%	タイをはじめインド、マレーシアでの自動車関連の取扱伸長
中国	+89.1%	日中関係不透明も、電子部材の航空輸入堅調、また、FULL連結子会社が寄与

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2014年3月期 通期計画 営業利益増減要因

(単位:百万円)



2014年3月期 通期計画 (単体)営業利益増減要因

営業利益	事業		想定	
+480百万円	自動車関連		北米・アジア向け部品輸送の堅調な推移	+100百万円
			中国向けCKD、部品の回復基調	
			メキシコ向け設備機器の取扱増加	
	港湾運送		ターミナルでのコンテナ取扱拡大	+150百万円
			ターミナルの固定費削減	
	その他	海上輸入	製材、合板輸入の堅調な推移	+230百万円
			食品、日用品輸入の取扱増加	
		化学品関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加	
			化学品生産の回復による取扱増加	
		航空輸送(一般)	輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等)	
			スペース仕入れの改善	

航空貨物 2014年3月期 地域別輸出取扱見通し

- 航空貨物は、日本・北米・アジア発は自動車関連・電子部材の取扱い増を見込む、中国発は電子部材の取扱い増を見込む

仕出地	2012年4月～13年3月	2013年4月～2014年3月		
	実績(トン)	見通し(トン)	前期比	トレンド
日本	31,300	32,300	3.2 %	
北米	9,800	10,000	2.0 %	
欧州	1,600	1,700	6.3 %	
アジア	8,900	9,600	7.9 %	
中国	19,700	21,400	8.6 %	
合計	71,300	75,000	5.2 %	

NVOCC(FCL) 2014年3月期地域別取扱見通し

- NVOCC(FCL)は、日本発自動車生産設備・部品、中国発アパレル・雑貨、北米発生鮮・化学品などの取扱い増を見込む

仕出地	2012年4月～13年3月	2013年4月～2014年3月		
	実績(TEU)	見通し(TEU)	前期比	トレンド
日本	37,100	39,500	6.5 %	
北米	5,300	5,700	7.5 %	
欧州	600	700	16.7 %	
アジア	11,700	12,000	2.6 %	
中国	29,400	31,300	6.5 %	
合計	84,100	89,200	6.1 %	

中期経営計画

～ 中期経営計画最終年 第5次中期経営計画へのバトンタッチ ～

第4次中期経営計画に対する考え方

第4次中期
経営計画策定時
(11年5月)

基本方針

■ 「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」として、成長・新興国への注力と新たな成長モデルの開発・育成を目指す

定量目標

■ 売上高2,100億円、営業利益62億円
■ 海外現地法人の売上高拡大1.6倍(260億円→420億円)
■ 利益率の向上(2.4%→3.0%) ※目標数値は中期経営計画最終年度(2014.03期末時点)

事業環境の変化
(13年4月)

ポジティブ

- 北米・メキシコ・アジアでの自動車生産拡大
- メーカーのグローバル調達加速
- 円高是正による輸出回復



ネガティブ

- 電機・電子業界先行き不透明
- 中国経済の減速懸念、日中関係緊張

ローリング
(13年4月)

基本方針

■ 変更なし、5つの重点施策を引き続き実行

定量目標
修正

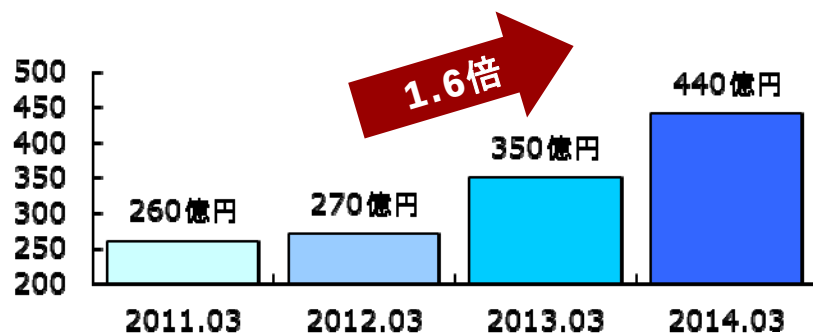
■ 売上高 2,100億円 → 1,940億円、営業利益 62億円 → 45億円
■ 海外現地法人の売上高拡大 420億円 → 440億円
■ 利益率向上 3.0% → 2.3%

次期中計

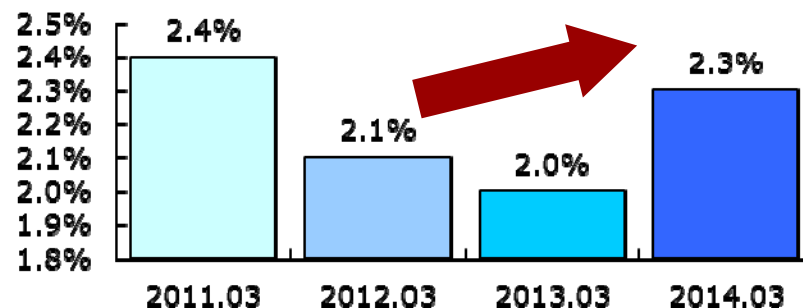
当初目標の過去最高益更新は、次期中期経営計画での達成をめざす

第4次中期経営計画 ～ 定量目標の見直し ～

海外現地法人の売上高拡大



利益率の向上



(単位: 百万円)

	2007.03 実績	2008.03 実績	2011.03 実績	第4次中期経営計画					
				2012.03		2013.03		2014.03	
				計画	実績	計画	実績	当初計画	修正計画
売上高	199,850	205,140	175,478	178,400	179,059	179,800	175,230	210,000	194,000
営業利益	6,071	5,244	4,128	4,000	3,791	4,200	3,422	6,200	4,500
経常利益	6,626	5,376	4,357	4,000	4,119	4,300	3,558	6,400	4,600
当期純利益	3,937	2,256	1,984	2,000	1,951	2,300	1,836	4,000	2,800
営業利益率	3.0%	2.6%	2.4%	2.2%	2.1%	2.3%	2.0%	3.0%	2.3%
ROE	10.0%	5.6%	5.4%	5.3%	5.3%	5.2%	4.7%	9.3%	6.4%

※ 2012年3月期 会計方針変更、11年3月期以前の売上高は遡及処理後の数値

第4次中期経営計画 ～ 5つの重点施策は継続 ～

5つの重点施策	取り組み目標	2013年3月進捗
1. フォワーディング事業の強化 ● 航空・海上・NVOCC事業の拡大 ● 自動車・電機電子・化学品分野をベースにした営業強化 ● 重点地域での積極的推進	● 顧客数拡大による営業基盤強化 ● 海外プロジェクトへの対応強化 ● 海外拠点の営業力強化	● 海外での新規顧客増 ● インドネシアでの営業体制強化 ● タイ発航空輸送の大幅増
2. 成長・新興国への注力		
● 中国 29ページ 	● 中国内陸展開	● 深圳現法設立、上海高信持分増
● ベトナム 30ページ 	● 大メコン圏広域物流網の構築	● (ベトナム)ブロックトレイン運行開始 ● (ラオス)ラオス日新設立、MLB開始 ● (タイ)BCC設立、低温輸送開始
● インド 31ページ 	● インド国内輸送車両増 ● インド拠点拡充	● インド日新持分増 ● トラック増車(300台体制) ● チェンナイ、バンガロール支店開設
3. 国内事業の整備・強化 ● 国内物流拠点の整備 ● 陸運事業の再構築	● 事業用資産の効率化	● CRE企画室設置、流動化実施 ● ドレー業務の構造改革
4. 新たな成長モデルの開発・育成 ● 危険品物流の拡充 ● 成長分野(食品、医薬・医療、環境関連)への展開・強化	● 危険品混載の強化 ● 医薬品物流への参入	● 定款変更(医薬品事業) ● 医薬品取扱い増
5. 強固な経営基盤の確立 ● グローバル人材の確保・育成 ● グローバルなIT対応力の強化	● 人材育成プログラムを推進 ● グローバルベースのシステム導入	● 社外研修 ● 世界戦略会議開催

中国戦略 ～中国4ブロック体制の確立～

- 現地法人の連結対象を拡大、「上海高信」FULL連結化、「日新中外運」持分連結化
2013.03:売上高40億円、営利4億円 → 2014.03(見込み):売上高100億円、営利8億円

中西部ブロック

新拠点の設立

【内陸部展開】
重慶、成都等内陸部への
拠点展開検討

華南ブロック

深圳 体制強化

【現法設立】
2012年6月
深圳日新

華北ブロック

現法 体制強化

【出資比率引き上げ】
2011年11月
日新中外運
持分45%→50%
(対象外→持分連結)
経常利益0.7億円増効果

華東ブロック

現法 体制強化

【出資比率引き上げ】
2012年11月方針決定
2013年6月完了予定
上海高信
持分25%→80%
(持分連結→FULL連結)
売上55億円・営利2億円増効果

東南アジア戦略 ～ AFTA対応広域物流網構築 ～



広域物流網の構築

ベトナム

- カーワゴン(四輪車輸送)、ブロックトレインの運行拡大

タイ

- 2012年4月低温輸送サービスを提供開始
- 2013年末プラチンブリ県で自動車向け新倉庫稼働予定(5,400㎡)

タイ・バンコク～ベトナム・ハノイ

- 2012年3月メコン・ランド・ブリッジサービスを提供開始、2013年5月定期混載便開始

シンガポール～マレーシア～タイ・バンコク

- クロスボーダー輸送サービスを提供中

シンガポール・マレーシア倉庫施設拡充

- 2013年10月マラッカ新倉庫稼働予定(8,500㎡)
- 2014年1月シンガポール新倉庫稼働予定(5,800㎡)

インド戦略 ～ 拠点ネットワークの拡充 ～

事業基盤の強化

インド日新出資比率引き上げ

- 2012年11月
持分51% → 95%

トラック輸送サービスの強化

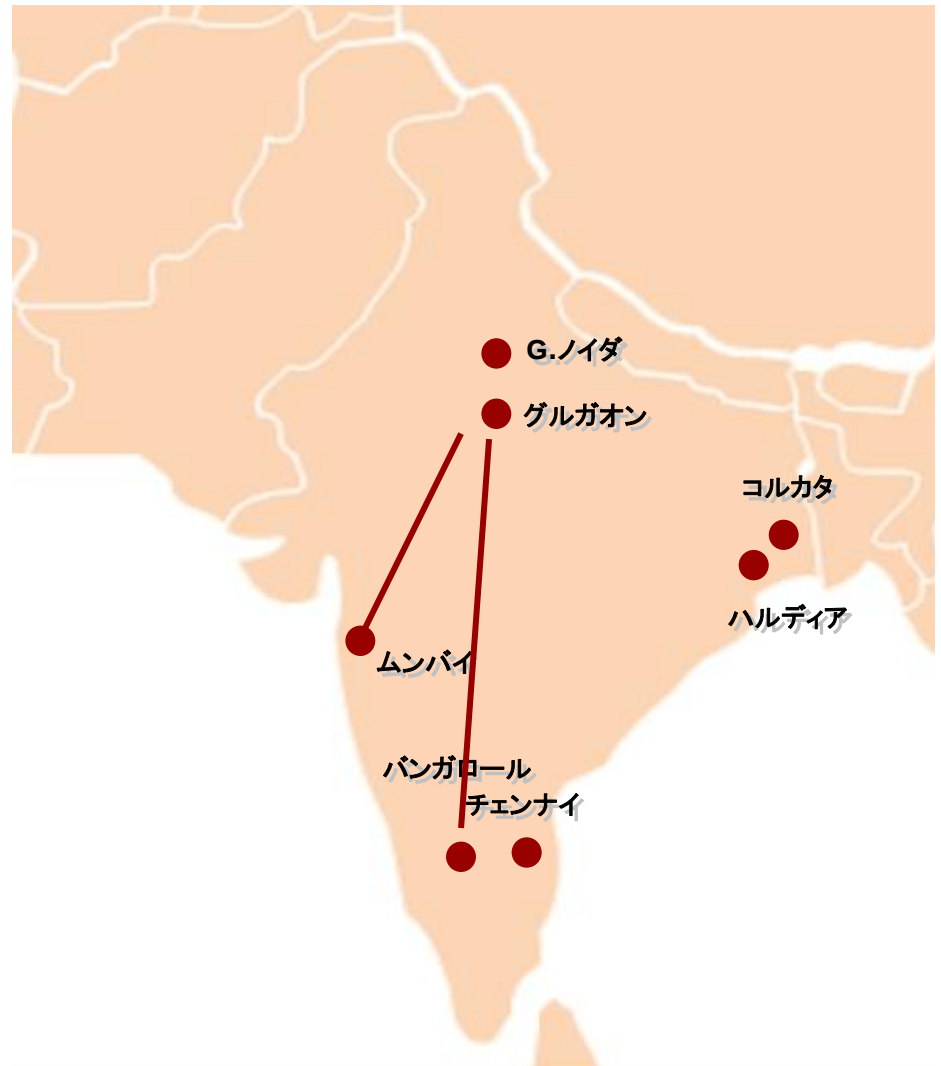
- デリー地区から南部各都市を結んだ
配送サービスを提供(運行車両300台)

インド拠点網の拡充

- チェンナイ支店開設(2012年2月)
- バンガロール支店開設(2013年4月)

フォワーディング業務の強化

- 自動車産業を主ターゲットに、グルガオン、チェンナイ、バンガロールでのフォワーディング業務に注力



本日の決算説明会のまとめ

2013年3月期は、前期比減収減益

- 2013年3月期は、日本、海外ともに自動車関連貨物の取扱いが順調に推移し、欧米、アジアの収益回復に加え、旅行事業も寄与したが、当初期待した電子部材の荷動きが停滞したほか、日中関係の影響を受けターミナル事業が低迷し、減収減益
- 当期純利益は、環境対策費、株式の減損など特別損失の発生により減益

2014年3月期は、前期比増収増益を見込む

- 2014年3月期は、電機・電子業界や日中関係の先行きが不透明ながら、自動車関連貨物の順調な推移による国内外での収益増大に加え、ターミナル事業の回復、経営効率化の効果により、増収増益を見込む

第4次中期経営計画を見直し

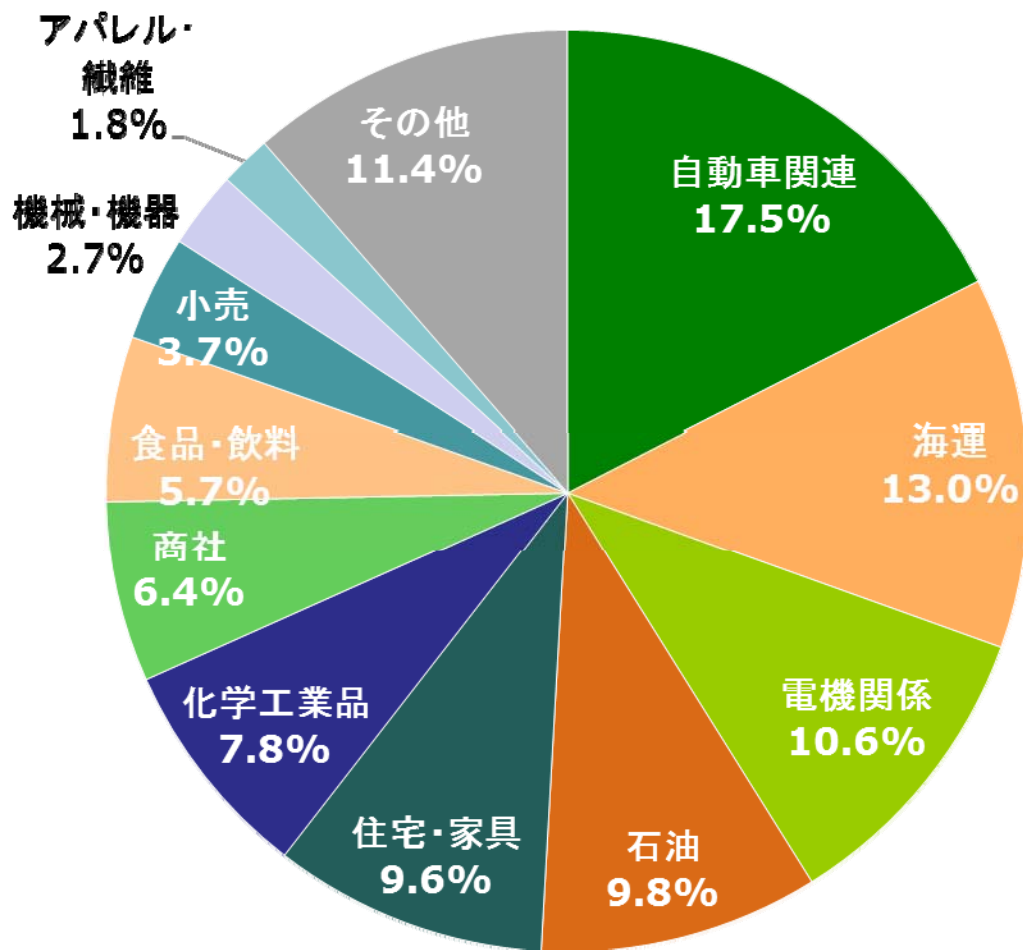
- 第4次中期経営計画は、当初想定が大きく変わり、最終年目標を修正
- 過去最高益の更新は第5次中期経営計画での達成を目指す

自動車関連物流

～ 顧客から選ばれ続けるために ～

自動車関連物流の売上高 ～ 単体売上高の17.5% ～

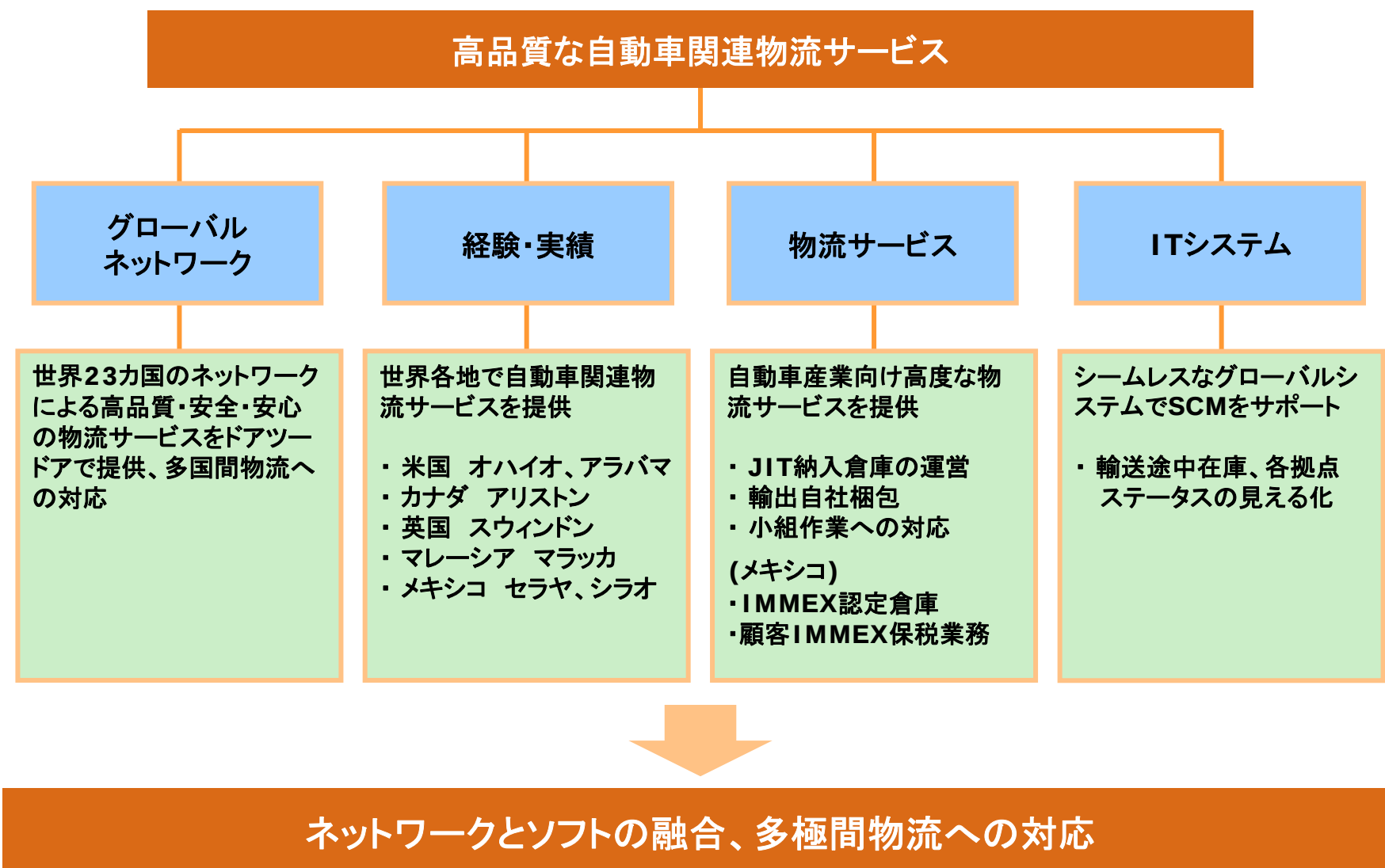
2013年3月期 顧客構成(単体、売上高上位100社)



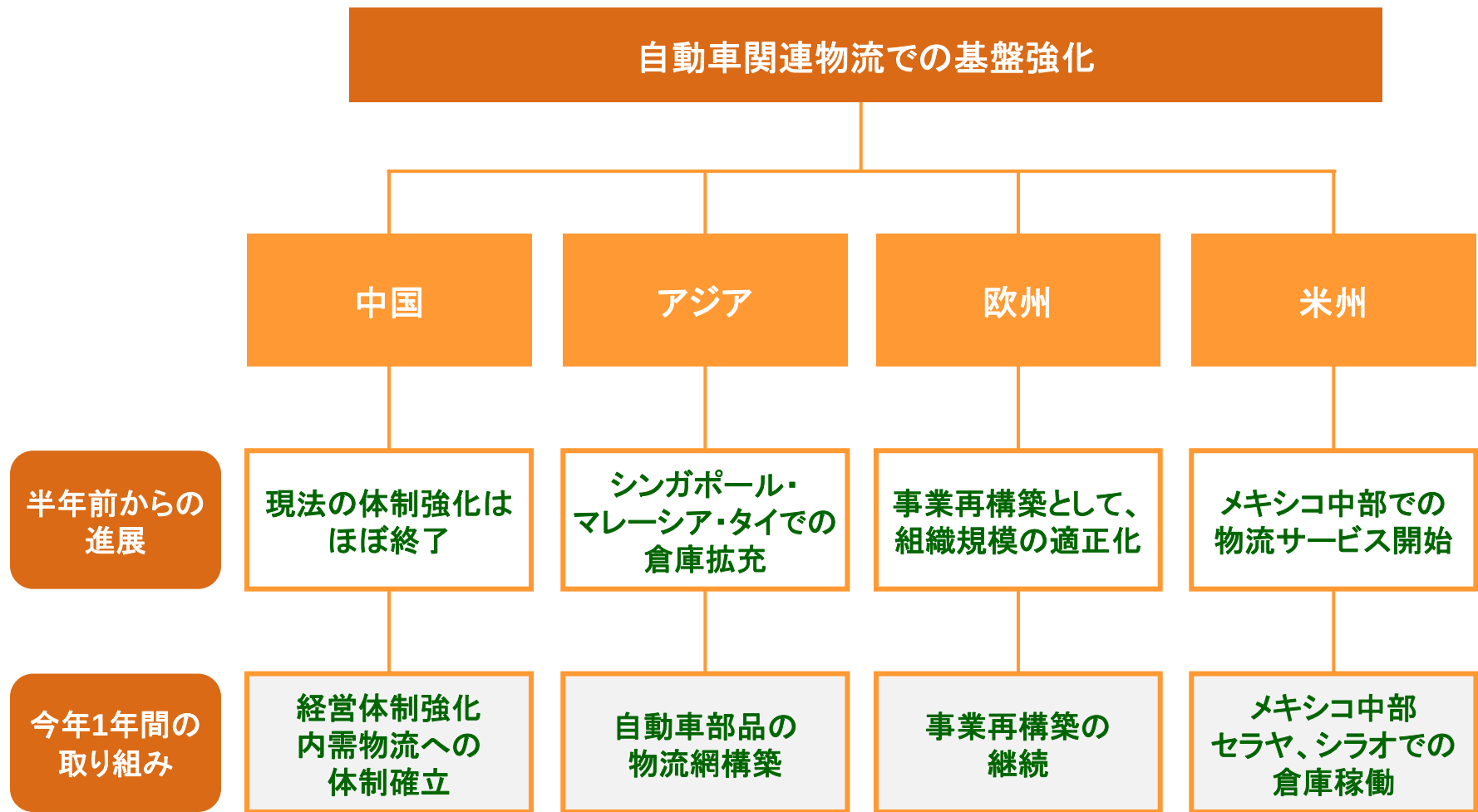
自動車

完成車・CKD輸出、部品輸出入

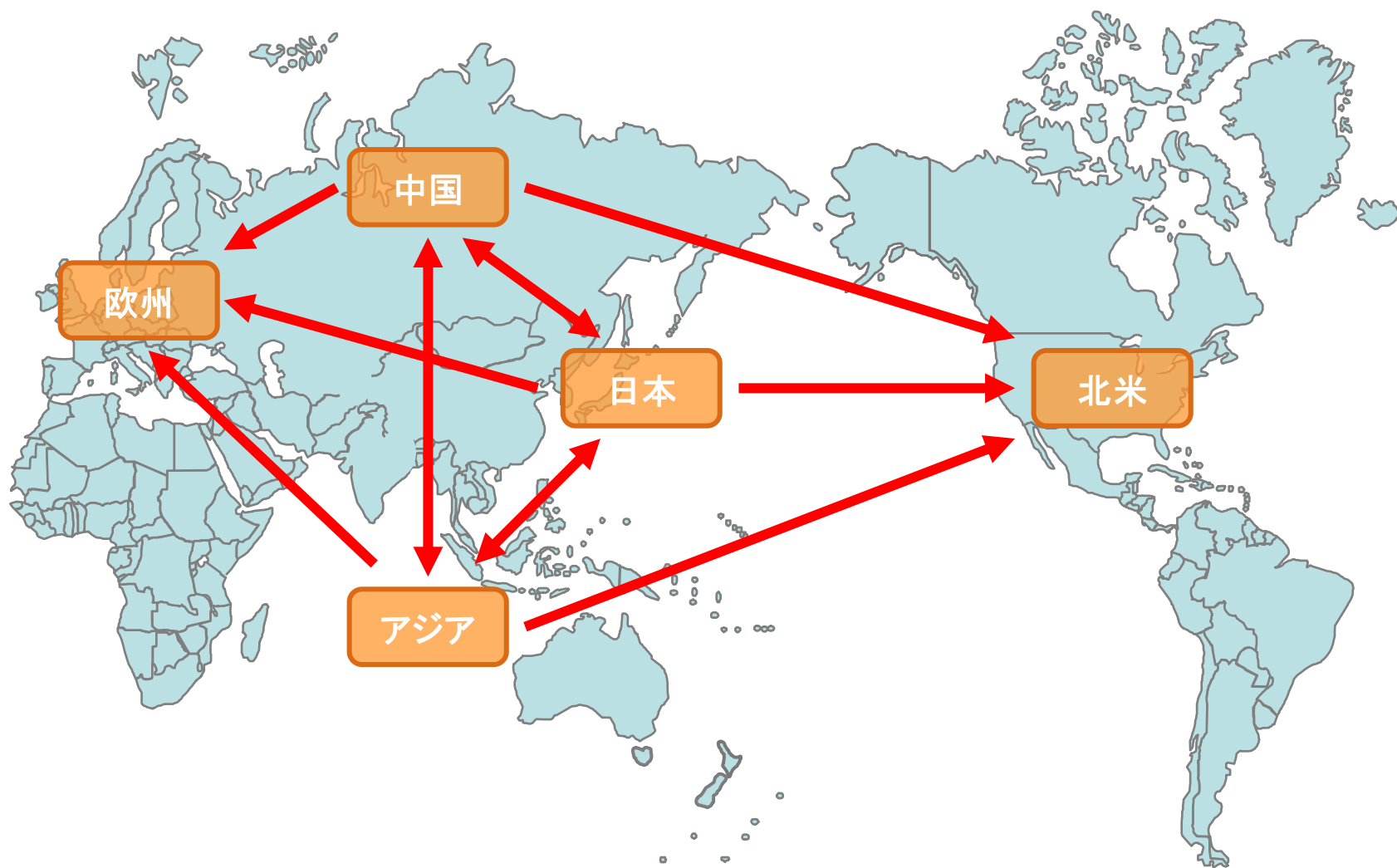
高品質な自動車関連物流サービスの提供



自動車関連物流での基盤強化



自動車関連物流 ～ グローバル調達への対応 ～



メキシコ ～ JIT対応倉庫を稼働 ～

メキシコ中部物流網の確立

支店設立

- 2011年11月、メキシコ日新セラヤ支店設立

自動車産業向け

- 自動車産業をターゲットに、フォワーディングサービスを提供中(設備機器)

JIT対応倉庫

- 2013年6月、第1セラヤ倉庫稼働予定
- 2013年10月、シラオ倉庫稼働予定
- 2014年1月、第2セラヤ倉庫竣工(自社倉庫)稼働予定(延床15,000㎡)

最適物流

- 工場物流への参入、およびトラック・鉄道等各輸送モードを駆使した最適物流の確立・提供を目指す



Memo